展示室１ｃ　ルドンコレクションから：黒のファンタジー　　2026年7月23日(木)から9月27日(日)

○印は8月16日(日)まで、●印は8月18日(火)から展示

岐阜県美術館は19世紀後半から20世紀にかけて活動したフランスの画家オディロン・ルドンの作品を重点的に収集し、世界有数のコレクションを形成しています。本展示では、ルドンが1860年代から90年代にかけて取り組んだ木炭画や版画作品を中心に、独創的な黒の世界を紹介します。

作家名	生年-没年		作品名	制作年	技法素材
オディロン・ルドン	1840-1916		骸骨	1880頃	木炭、紙
			絶対の探求…哲学者	1880	木炭、紙
			気球	1883	木炭、紙
			沼の花		木炭、紙
			悲嘆	1893頃	木炭、紙
		●	まなざし	1889-94頃	パステル、木炭、チョーク
			『夢のなかで』II.発芽	1879	リトグラフ、紙
			『夢のなかで』VIII.幻視	1879	リトグラフ、紙
			『エドガー・ポーに』I.眼は奇妙な気球のように無限に向かう	1882	リトグラフ、紙
			『エドガー・ポーに』III.仮面は弔いの鐘を鳴らす	1882	リトグラフ、紙
			『エドガー・ポーに』V. 諸存在を導く息吹は球の中にもある	1882	リトグラフ、紙
			『起源』表紙＝扉絵	1883	リトグラフ、紙
			『起源』I．おぼろげな物質の奥底で生命が目覚めた時	1883	リトグラフ、紙
			『起源』II.おそらく花の中に最初の視覚が試みられた	1883	リトグラフ、紙
			『起源』III.不恰好なポリープは薄笑いを浮かべた醜い一つ目巨人のように岸辺を漂っていた	1883	リトグラフ、紙
			『起源』VIII.そして人間が現れた。彼が出てきた、彼を引き寄せる大地に訊ねながら、暗い光に向かって道を切り開いていった	1883	リトグラフ、紙
			『ゴヤ頌』II.沼の花、悲しげな人間の顔	1885	リトグラフ、紙
		●	光の横顔	1886	リトグラフ、紙
			『夜』III.堕天使はその時黒い翼を開いた	1886	リトグラフ、紙
			『夜』IV.キマイラはあらゆるものを恐ろしそうに見つめた	1886	リトグラフ、紙
			『聖アントワーヌの誘惑』第一集II.それは二つの翼の下に、七つの大罪を抱えた悪魔だ･･･	1888	リトグラフ、紙
			『聖アントワーヌの誘惑』第一集X.･･･まるい太陽のただなかに、イエス・キリストの顔が光りかがやく	1888	リトグラフ、紙
			『ギュスターヴ・フロベールに』(『聖アントワーヌの誘惑』第二集)I.聖アントワーヌ：･･･その顔を覆い隠す長い髪の毛を透かし見た時、私はそれがアンモナリヤだと思いこんだのだ	1889	リトグラフ、紙
		○	眼をとじて	1890	リトグラフ、紙
			『夢想(わが友アルマン・クラヴォーの思い出のために)』VI.　日の光	1891	リトグラフ、紙
		○	天上の芸術	1894	リトグラフ、紙
			『聖アントワーヌの誘惑』第三集XIV.オアンネス：混沌の最初の意識である私は、物質を固くし、形体を定めるために、深淵からおどりでてきた	1896	リトグラフ、紙

オディロン・ルドン	1840-1916		『聖アントワーヌの誘惑』第三集XVI.私はいつまでも偉大なイシス！まだ誰も私のヴェールをかかげたものはいない！私の果実が太陽なのだ！	1896	リトグラフ、紙
			『聖アントワーヌの誘惑』第三集XVIII.アントワーヌ：これらすべての目的は何だろう？　悪魔：目的などはないのだ！	1896	リトグラフ、紙
			『聖アントワーヌの誘惑』第三集XXII.･･･革袋のように丸い、海の獣たち	1896	リトグラフ、紙
			『幽霊屋敷』 IV. 十中八九それは私のと同様に肉と血をもつ手であった	1896	リトグラフ、紙